

防衛省行政事業レビュー公開プロセス（1日目）
取りまとめコメント

事業名：安全保障技術研究推進制度

【研究テーマ】

- ・ 学術分野や産業分野への波及効果を想定した研究テーマを選定すべき。応募者の研究を防衛のニーズにマッチングさせるため、研究期間中も一定のコミュニケーションをとり、ニーズ側のインプットを十分なものにすべき。
- ・ 研究テーマの選定時点から小規模で結果の出やすい研究ばかりにならず、ハイリスクな研究も受け入れられる評価を行うことが必要。
- ・ 活動とアウトプットの関係をより具体的な形でレビューを行い、より幅広い領域の研究に取り組むことが重要。
- ・ 加速度的な技術進展の状況下において、基盤を強化するため、予算額の増加が必要。

【大学の参画など】

- ・ 基礎研究の遂行能力を持つと考えられる大学の参画が低調であることから、その要因を分析し、対策をとる必要。
- ・ 特定の（AI等）技術において、倫理的・社会的側面の観点から検討する必要。

【EBPM】

- ・ 研究成果の防衛分野への活用の仕組みが評価対象となっていないことから達成度のレベル分析と達成できなかった場合の要因分析を中期アウトカムの評価軸に、活用段階へ移行した研究成果数・達成度等を長期アウトカムの評価軸に設定すべき。

事業名：先進技術の橋渡し研究

【ピアレビューの体制】

- ・戦い方の変革にインパクトを与えられるような先端技術の選定をするために、研究者側と運用者側が良く連携し、研究者側の提案に戦い方の設計を反映する仕組みや、シーズから発展させていくという形ではなく、ニーズから導き出される技術要求を強化していく必要。
- ・フェイズ1においては、審査側の思考の飛躍的発想を認める柔軟性を担保するため、多様な外部人材の登用が重要。また、フェイズ2においては、研究進捗の迅速性を高めるため、仮試作を同時に行う等、進め方の工夫が必要。

【ピアレビューの審査】

- ・研究事業は必ずしも年度管理が適切でない場合があるため、年度の切れ目にかかわらず、内容の進捗に応じたフェイズのレビューを行い、継続・中止等の判断をするべき。
- ・「死の谷」は、研究開発から実用化に向けてコスト量産化などの問題が「谷」となって現れる。コストや量産化を評価する仕組みを審査項目に入れるべき。
- ・審査項目にあたっては、変化の影響をさまざまな角度から検討するとともに、最終的な成果との関係性がわかるようにするべき。
- ・育成を断念した技術が将来生きる可能性を踏まえ、失敗要因、成功要因の分析・共有が重要。

【EBPM】

- ・初期アウトカムとして継続件数を設定しているが、挑戦的な研究を阻害しないためには、質的な評価に基づいた指標と併せて考慮することが望ましい。
- ・ピアレビューの審査項目指標と長期アウトカムを整合させるべき。